

平成 30 年度
喜多方市基本計画審議会

意見書(答申)

平成 30 年 10 月
喜多方市基本計画審議会

喜多方市基本計画審議会意見書

喜多方市基本計画審議会（以下「審議会」という。）は、平成30年7月17日、市長からの諮問を受け、喜多方市総合計画の基本計画の進捗状況について、平成30年7月17日及び8月27日に調査審議を行いました。

この2回にわたる審議会での議論の結果を、市長に意見書として答申します。施策の進捗状況は、おおむね順調に進展していると認められますが、改善を要する点も見受けられますので、今後ともご努力をお願いします。特に、成果指標において、現時点で進捗が見られていないものや、市民満足度・重要度調査において、満足度が低位にある施策の分野については、それらの状況を認識され、改善に向けた取り組みを図られるよう希望します。

また、移住・定住の施策の分野で実績を上げていることを評価するとともに、今後も引き続き、産業の振興と東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う風評被害の払拭に取り組みながら、人口減少・少子高齢化への対応を最重要課題として位置づけ、本市総合計画の着実な推進に努めてください。

なお、市民満足度・重要度調査は、この意見書の基礎となっているため、標本割合に近い年齢層からの回答が得られるよう、アンケートの取り方を検討してください。

平成30年10月24日

喜多方市長 遠 藤 忠 一 様

喜多方市基本計画審議会
会長 唐 橋 幸市郎

大綱1 地域の特性を生かした力強い産業づくり

施策の分野	施策項目	
農林業	(1) 担い手の育成・確保	(6) 特色ある農業の推進
	(2) 農用地の集積と有効利用	(7) 農村環境・農業基盤の整備保全
	(3) 戦略的作物の産地化	(8) 林業の担い手育成と生産基盤の整備
	(4) 農業経営の安定化	(9) 森林の保全及び活用
	(5) 販路の拡大	(10) 有害鳥獣による被害防止
商業	(1) 魅力ある商店づくりと賑わいの創出	(3) 新たな活力の創出
	(2) 中小企業の育成	
工業	(1) 経営基盤の強化	(3) 新産業・新分野への進出支援
	(2) 雇用創出と人材の確保・育成	(4) 企業誘致の推進と操業支援
雇用・労働	(1) 就業機会の確保と雇用創出の推進	(3) 職業能力の向上と労働者福祉の向上
	(2) 若年層の市内定着の促進と市内企業の人材確保	
観光	(1) 地域特性を生かした観光の魅力づくり	(4) グリーン・ツーリズムの推進
	(2) 誘客宣伝活動の推進と受入体制の充実	(5) 物産の振興
	(3) 広域観光と外国人観光客の誘客推進	

1 成果指標

指標名	指標の説明	初期値 27年度	28年度 実績参考値	29年度 実績	33年度 中間目標値	38年度 最終目標値
①認定農業者数 [累計]	農業の担い手の確保を示す人数（各年度末の数値）	530人	533人	535人	610人	635人
②認定新規就農者数 [累計]	新たな農業の担い手の確保を示す人数（各年度末の数値）	10人	17人	17人	40人	40人
③集落営農組織数 [累計]	農業の担い手として確保する組織数（各年度末の数値）	52組織	56組織	58組織	65組織	80組織
④農用地の集積率 [累計]	農業の担い手（認定農業者、認定就農者、育成すべき農業者）への集積目標	56.2%	57.3%	58.6%	65%	70%
⑤園芸作物施設化率 [累計]	グリーンアスパラガスの生産における施設栽培面積の割合（各年度末の数値）	20.7%	23.6%	24.2%	30%	40%
⑥エコファーマー数 [累計]	福島県から「持続性の高い農業生産方式導入計画」の認定を受けた者（エコファーマー）の人数（各年度末の数値）	1,770人	1,304人	1,297人	2,000人	2,200人
⑦多面的機能支払交付金活動組織数 [単年]	農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域共同活動に取り組む年間の組織数	91組織	99組織	99組織	113組織	128組織
⑧森林経営計画策定面積 [累計]	間伐・植林等の森林施策について定める「森林経営計画」を策定し、国や県の補助事業の対象となる民有林の面積	2,078ha	2,116ha	2,180ha	3,100ha	3,500ha
⑨集落環境診断の実施地区数 [累計]	集落環境診断に取り組んだ地区数	30地区	43地区	44地区	36地区	51地区

指標名	指標の説明	初期値 27 年度	28 年度 実績参考値	29 年度 実績	33 年度 中間目標値	38 年度 最終目標値
⑩農作物野生獣被害対策事業取組地区数[累計]	農作物野生獣被害対策事業を活用し、電気牧柵を導入した地区数	7 地区	10 地区	11 地区	21 地区	31 地区
⑪創業者数[累計]	喜多方市創業支援事業計画に準じて起業、創業した数	25 人	43 人	54 人	63 人	103 人
⑫空き店舗活用数[累計]	福島県活力ある商店街支援事業（空き店舗対策事業）を新たに活用した数	1 件	1 件	1 件	8 件	13 件
⑬工場等新設・増設件数[累計]	工場立地法、福島県工業開発条例に基づく工場等新設・増設届出件数	2 件	4 件	6 件	10 件	20 件
⑭製造品出荷額等[単年]	工業統計調査（従業員 4 人以上の事業所）による年間の製造品出荷額等の額（暦年）	713 億円 (H26)	783 億円 (H27)	現時点で 未公表	750 億円	780 億円
⑮有効求人倍率[単年]	ハローワーク喜多方に申し込まれている求職者数に対する求人数の割合（年度間）	1.02 倍 (H28.4 月 時点)	1.11 倍	1.07 倍	1.00 倍以上	1.00 倍以上
⑯地元就職率[単年]	管内新規高卒者で管内就職希望者数のうち、管内就職者数の割合	100%	100%	98.9%	100%	100%
⑰観光客入込数[単年]	本市を訪れた年間の観光客数（暦年）	1,825,786 人	1,850,716 人	1,865,752 人	2,055,600 人	2,383,000 人
⑱宿泊者数[単年]	市内の旅館、ホテル等の年間の宿泊者数（暦年）	67,301 人	65,384 人	66,775 人	70,800 人	72,800 人
⑲グリーン・ツーリズム交流人口[単年]	グリーン・ツーリズムで本市を訪れた年間の人数	5,411 人	7,532 人	8,006 人	10,900 人	13,900 人
⑳外国人観光客数[単年]	本市を訪れた年間の外国人観光客数（暦年）	458 人	753 人	519 人	2,400 人	3,900 人

【成果指標からみた実績】

農林業の分野では、初期値と比較した 29 年度の実績値は、⑥エコファーマー数を除き上昇しています。⑨集落環境診断の実施地区数は、33 年度の中間目標値を達成しています。エコファーマー数の減少は、5 年の認定期間が終了した後、高齢化による離農や、認定されていても価格優位性に乏しいことなどを理由に、再認定申請を行わないことが要因と考えられます。

商業の分野では、⑪創業者数に増加が見られます。

工業の分野では、⑬工場等新設・増設件数が増加しています。また、27 年度のデータにはなりますが、⑭製造品出荷額等が増加が見られます。

雇用・労働の分野では、⑮有効求人倍率が引き続き 1 倍を超えて推移していますが、市内の高校に通う生徒のうち、就職しなかった生徒が 2 名いたために、⑯地元就職率については僅かに減少した値となっています。

観光の分野では、⑰観光客入込数と⑱宿泊者数に増加がみられます。また、教育旅行の増加によって⑲グリーン・ツーリズム交流人口が増加していますが、そのうち外国人の参加人数は減少し、結果として全体の⑳外国人観光客数も減少する結果となっています。

2 市民満足度・重要度調査結果

項 目	満足度		重要度	
	29 年度	30 年度	29 年度	30 年度
(1) 農林業の振興について (1 の①～⑩)	46.5	44.2	82.9	83.8
(2) 商業の振興について (1 の⑪⑫)	37.7	37.0	79.6	81.7
(3) 工業の振興について (1 の⑬⑭)	35.5	33.8	83.5	84.3
(4) 市内における就業の機会や就業支援について (1 の⑮⑯)	33.3	33.9	87.4	88.1
(5) 観光の振興について (1 の⑰～⑳)	61.1	54.3	81.8	82.7
平 均	42.8	40.6	83.1	84.1

※29 年度、30 年度に実施した市民満足度・重要度アンケート調査による。

【市民満足度・重要度調査結果についての解説】

以下の文章には、次の内容を記載しています。(※項目は、大綱 1 から大綱 4 まで合わせて 27 項目あります。)

- ・満足度・重要度の順位
今年度の調査結果に基づいた各項目の順位になります。各項目の相対的な位置づけであり、市民の満足の高低、関心の高低がわかります。
- ・満足度で「わからない」を選んだ割合
満足度で「わからない」を選んだ割合が 35%を超えた項目について記載しています。市民に内容があまり知られていないものと推測されます。
- ・満足の理由、不満の理由、重要とする理由、重要でないとする理由
今年度の調査で満足・重要などを選択した理由や市民の意見などの主なものを記載しています。

【市民満足度・重要度調査結果】

(1) 農林業の振興について

満足度の順位は 27 項目中 21 位となり、重要度の順位は 27 項目中 12 位となった。

不満の理由として、

「農家に後継ぎがなく高齢者ばかり。田んぼや畑はどうなるのか先々心配です。」「農林業は担い手（若い人）に魅力がなく収入も少ないように思われている。」といった意見があった。

重要とする理由として、

「農林業は大事です。成長すれば商業も観光も発展します。」「地産地消、これからも安心して安全なお野菜などをいただきたいと思う。」「担い手の育成が最重要課題。後継者がいなくて地域内で農業（水稻）の継続もなかなかままならない。」といった意見があった。

(2) 商業の振興について

満足度の順位は 24 位となり、重要度の順位は 15 位となった。

不満の理由として、

「商店街に活気がない。若者が市内で買い物ができる大型商業店を誘致してほしい。喜多方市内では事足りない。」「駐車場の不備が買い物にストップをかける。それに各店の特色がない。」「商店街に入りづらい気がする。」といった意見があった。

(3) 工業の振興について

満足度の順位は最下位の 27 位となり、重要度の順位は 10 位となった。

不満の理由として、

「工業振興が不足している。企業誘致が簡単ではないことはわかるが、他の自治体と比べてもあまりにも消極的すぎる。」といった意見があった。

重要とする理由として、

「人口減少に歯止めをかけるためにも企業誘致を積極的に行わなければならないのでは。」という意見があったほか、「工業は雇用と人材確保、育成が一番だが、会社の組織・中身を見ていただくために工場見学等を実施してはどうか。」といった提言もあった。

(4) 市内における就業の機会や就業支援について

満足度の順位は 26 位となり、重要度の順位は 5 位となった。

不満の理由として、

「就業について、職種が限定されているように思う。若い人が幅広く職種を選択できるようにしてください。」「若者が働く会社がない。安定した企業がない。」といった意見があった。

重要とする理由として、

「就業支援については、特に福祉施設の慢性的な職員不足について危機感がある。」「地元で働くとする若者が減っている。若者の減少、人口の減少改革が必要と思う。」といった意見があった。

(5) 観光の振興について

満足度の順位は 11 位となり、重要度の順位は 14 位となった。

満足の理由として、

「観光に関してアピールできていると感じます。」との意見があった一方、

「さくら祭りでもっと市内も観光して歩いてもらえるように工夫する。市内はガラガラ。」「観光は素通り観光ではなく、もう少し一考を!!」「もっと観光などで誘客を勧めるのはよいが、喜多方市に 2,3 日ゆっくりしてもらうことを考えるのも大事。一人あたりのお金が大事。」「時期によって体験型の観光を作ってみてもよいのでは?」といった提言もあった。

3 審議会委員の意見（評価、提案、要望等）

- ・ 集落営農の組織化は、担い手の育成に寄与し、補助事業、助成制度、農地の流動化を含めた事業展開も期待できることから、引き続き推進してください。推進にあたっては、農業委員や農地利用最適化推進委員など、関係者との連携を図ってください。

大綱2 地域を支え未来を拓く人づくり

施策の分野	施策項目	
学校教育	(1) 自己啓発力の育成	(5) 教員の資質・能力の向上
	(2) 学ぶ力の基となる基礎的な資質・能力の育成	(6) 安全で楽しく学ぶことができる学校環境の整備
	(3) 勤労観、職業観及び職能の基本的資質・能力の育成	(7) 均等な教育機会の確保と意欲をもって学べるための支援
	(4) 共助、協働の態度及びコミュニケーション能力の育成	
生涯学習	(1) 生涯学習の推進	(3) 青少年の健全育成
	(2) 生涯スポーツの推進	
歴史・文化	(1) 文化芸術の振興・文化芸術活動への支援	(3) 歴史・文化の活用
	(2) 歴史・文化等の発掘、保護・保存、継承	(4) 文化施設の整備
男女共同参画	(1) 男女共同参画社会の推進	

1 成果指標

指標名	指標の説明	初期値 28年度	28年度 実績参考値	29年度 実績	33年度 中間目標値	38年度 最終目標値
①「自分には、よいところがある」と回答した割合[単年]	全国学力・学習状況調査における質問項目「(あてはまる」と回答した割合)	小学校 31% 中学校 24%	31% 24%	39.0% 24.0%	50% 50%	80% 80%
②全国学力・学習状況調査の国語と算数・数学の「主に知識に関する問題(A)」と「主に活用に関する問題(B)」の結果の全国との比較(知)[単年]	全国平均との比較	小学校 国A：並 国B：下回る 算A：やや下回る 算B：やや下回る 中学校 国A：やや下回る 国B：やや下回る 数A：やや下回る 数B：下回る	小学校 国A：並 国B：下回る 算A：やや下回る 算B：やや下回る 中学校 国A：やや下回る 国B：やや下回る 数A：やや下回る 数B：下回る	小学校 国A：上回る 国B：やや下回る 算A：全国並 算B：全国並 中学校 国A：やや下回る 国B：やや下回る 数A：下回る 数B：下回る	各科目ともやや上回る 各科目とも上回る	各科目とも上回る 各科目とも上回る
③「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した割合(徳)[単年]	全国学力・学習状況調査における質問項目「(あてはまる」と回答した割合)	小学校 66% 中学校 70%	66% 70%	70.0% 65.0%	80% 80%	90% 90%
④体力・運動能力調査における達成率(体)[単年]	調査の8種目中、何種目で全国平均値並となったかを表す達成率	小学校 男：46% 女：44% 中学校 男：23% 女：20%	男：46% 女：44% 男：23% 女：20%	男：59% 女：64% 男：63% 女：55%	男：63% 女：63% 男：50% 女：50%	男：100% 女：100% 男：100% 女：100%
⑤「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合[単年]	全国学力・学習状況調査における質問項目「(あてはまる」と回答した割合)	小学校 67% 中学校 48%	67% 48%	70.0% 44.0%	80% 70%	90% 80%
⑥学級生活満足群と不満足群の割合[単年]	Q-Uで、学級集団に対し「居心地がよい、嫌な思いをしていない」と捉えている子どもの割合(満足群)とその反対と捉えている子どもの割合(不満足群)	小学校 満足群：64% 不満足群：13% 中学校 満足群：59% 不満足群：19%	満足群：64% 不満足群：13% 満足群：59% 不満足群：19%	満足群：68% 不満足群：10% 満足群：63% 不満足群：16%	満足群：80% 不満足群：0% 満足群：75% 不満足群：0%	満足群：90% 不満足群：0% 満足群：85% 不満足群：0%

指標名	指標の説明	初期値 27 年度	28 年度 実績参考値	29 年度 実績	33 年度 中間目標値	38 年度 最終目標値
⑦生涯学習講座の受講者数[単年]	生涯学習講座を受講した年間の延べ人数	53,837 人	53,993 人	53,765 人	55,000 人	56,000 人
⑧講師派遣事業支援実施数[単年]	勉強会等への講師派遣の年間の回数	55 回	44 回	55 回	80 回	100 回
⑨市立図書館の図書貸出し冊数[単年]	市立図書館の年間の図書貸出し冊数	133,273 冊	128,095 冊	125,189 冊	135,000 冊	138,000 冊
⑩生涯スポーツ活動者数[単年]	スポーツイベント・教室等への年間参加者数	18,994 人	22,907 人	18,714 人	20,000 人	21,000 人
⑪スポーツ施設利用者数[単年]	スポーツ施設年間利用者数	318,167 人	326,302 人	331,295 人	321,000 人	324,000 人
⑫文化財活用事業の参加者数[単年]	文化財を活用した各種事業への年間参加者数	2,300 人	2,342 人	2,738 人	2,500 人	2,800 人
⑬喜多方市美術館入館者数[単年]	喜多方市美術館の年間入館者数	13,629 人	15,359 人	9,403 人	15,000 人	16,000 人
⑭審議会等における女性委員の割合[単年]	本市の審議会等の委員数に占める女性委員の割合(各年 4/1 時点)	30.2% (H28)	30.2%	29.9%	40.0%	40.0%
⑮男性の育児休業取得率[単年]	喜多方市役所の男性職員の育児休業取得割合	0%	0%	0%	5%以上	5%以上
⑯男性の育児参加のための休暇取得率[単年]	喜多方市役所の男性職員の育児参加のための休暇取得割合	0%	15.4%	18.2%	10%以上	10%以上

【成果指標からみた実績】

学校教育の分野では、小学校は、すべての指標で初期値を上回っています。一方、中学校は、④体力・運動能力調査における達成率（体）の結果が大幅に向上し 33 年度の中間目標値を上回り、また⑥学級生活満足群と不満足群の割合の結果が初期値を上回ったものの、その他の指標は、維持または若干下回る結果となっています。

生涯学習の分野では、悪天候によるイベント中止等の影響があり、⑩生涯スポーツ活動者数について伸び悩みが見られるなか、⑪スポーツ施設利用者数が 38 年度の最終目標値を上回るなど、おおむね良好な数値を示しています。

歴史・文化の分野では、⑫文化財活用事業の参加者数は 33 年度の中間目標値を上回ったものの、⑬喜多方市美術館入館者数は、4 年間に渡る大型展示であった「せびろまの夢」展が終了したことに加え、当初予定していた企画展の 1 つが、作者の都合で開催できなかった影響もあり、大幅に落ち込む結果となりました。

男女共同参画の分野では、⑯男性の育児参加のための休暇取得率が上昇し、38 年度の最終目標値を上回りました。一方で、⑭審議会等における女性委員の割合は若干低下し、⑮男性の育児休業取得率は、現時点で進捗がありません。

2 市民満足度・重要度調査結果

項 目	満足度		重要度	
	29 年度	30 年度	29 年度	30 年度
(1) 学校教育の充実について (1の①～⑥)	54.6	55.5	89.2	88.2
(2) 生涯学習に参加する機会について (1の⑦～⑨)	57.7	57.4	73.7	72.8
(3) スポーツ活動に参加する機会について (1の⑩⑪)	58.9	56.9	74.6	72.7
(4) 文化芸術に接する機会について (1の⑬)	57.0	54.6	71.6	71.7
(5) 文化財や蔵などの保護・保存や利活用について (1の⑫)	59.1	58.0	76.2	74.9
(6) 男女共同参画の推進について (1の⑭～⑯)	53.9	54.9	70.1	69.8
平 均	56.9	56.2	75.9	75.0

【市民満足度・重要度調査結果】

(1) 学校教育の充実について

満足度の順位は7位となり、重要度の順位は4位となった。

重要とする理由として、

「学校教育は子供にとって最重要課題だと思う。」「学校教育について、豊かな感性と能力を充分に修得され、将来に向け躍進されますように思う。」「子どもが少なくなっているのもっと子供にお金をかけることが大事。」といった意見があった。

また、「学校で無料塾のような教育を受けられ、いじめなどで学校へ行くことができなくなった子供達への教育の場を作っていただけたら良いと思う。」「市が生んだ偉人の業績や思想を学び、外部からの講師を招くことにより、積極性を図ったらどうかと思う。」との提言もあった。

(2) 生涯学習に参加する機会について

満足度の順位は4位となり、重要度の順位は23位となった。

満足の理由として、

「人づくり指針や各公民館活動等が活発に行われている。」といった意見があった一方、

「一部の年齢層の方しか利用できないようなイメージがある。働き盛り、子育て世代には参加が難しいように思える。」「参加したいと思っても平日のみ。」との意見もあった。

また、「高校生と大学生や地元就職している社会人とを交流させ、高校生の視野を広げるようなワークショップは、互いにとって良い刺激になると思う。」との提言もあった。

(3) スポーツ活動に参加する機会について

満足度の順位は5位となり、重要度の順位は24位となった。

満足の理由として、

「スポーツや文化芸術イベントは幅広く行っているのよいと思う。」といった意見があった一方、

「用品、備品を充実させてあげたい。」「多少費用が高くても、近代的で清潔な施設に行きたいものである。」「施設はもっと充実させるべき。」「押切のスポーツ広場、陸上競技場、野球場、体育館など借りるときの職員の対応に不満。」といった意見もあった。

(4) 文化芸術に接する機会について

満足度の順位は10位となり、重要度の順位は25位となった。

満足の理由として、

「喜多方市にはプラザという大ホールがあって、芸能人や偉い人の講演などの鑑賞ができる事がとても良いと思う。」との意見もあった一方、

「喜多方プラザ公演をどんどん増やしてほしい。若い人から高齢まで楽しめること。」「経験豊富な舞台スタッフがいなくなっている。」「美術館の展示物はもっと魅力的なものが欲しい。」「文化・芸術に接する窓口として JR 喜多方駅周辺を考えてみてはどうだろうか。」といった意見もあった。

(5) 文化財や蔵などの保護・保存や利活用について

満足度の順位は3位となり、重要度の順位は21位となった。

主な意見として、

「地元に住む人たちが集える場所をメインストリートや空き蔵の利用などで確保できないか。

「蔵の街」にふさわしく、日常的に賑わいのある街並みにするためのアイデアを広く募り、補助金制度などを広範囲に活用してもらい、閉鎖的空間をなくす。」といった意見があった。

(6) 男女共同参画の推進について

満足度の順位は9位となり、重要度の順位は26位となった。

満足度でわからないを選んだ割合が36.3%と高かった。

不満の理由として、

「具体的にわからない。」「まだまだ女性の立場が弱いように思う。」「男女にかかわらず適材適所であればよい。」「女性の社会進出が進んでいる反面、結婚、出産、子育てに対する助成が少ない。」「男性の教育をする施策が大事。」といった意見があった。

3 審議会委員の意見（評価、提案、要望等）

- ・ 小・中学生の健やかな体の育成に引き続き取り組み、各種目において体力・運動能力が向上するよう、体育の授業だけでなく、生涯スポーツとしても積極的に取り組んでいける環境の整備をお願いします。
- ・ 喜多方市美術館においては、企画力を高め、魅力的な芸術作品に触れる機会を設けて、地域における文化の向上に寄与するとともに、年間入館者が増加するよう努めてください。

大綱3 安全・安心、思いやりのある、人にやさしいまち・くらしづくり

施策の分野	施策項目	
子ども・子育て	(1) 保育等の充実	(4) 安全・安心な妊娠・出産と健やかな子どもの発育・発達の支援
	(2) 地域における子育て力の向上	
	(3) 子育て世代への経済的支援	(5) 出合いの創出
保健・医療・介護・福祉	(1) 生活習慣病予防対策の推進	(6) 保健・福祉施設の整備
	(2) 健康づくりに関する普及・啓発の推進	(7) 障がい者への支援
	(3) 地域医療体制の充実	(8) 生活困窮世帯への支援
	(4) 国民健康保険制度及び後期高齢者医療制度の適正な運営	(9) ひとり親家庭に対する支援
	(5) 喜多方市地域包括ケアシステムの構築	(10) 福祉関係団体等への支援
消防・防災	(1) 消防体制の充実	(3) 避難体制の確立
	(2) 防災体制の強化	(4) 救急救助体制の充実強化
生活・安全	(1) 交通安全の推進	(4) 野生動物による人的被害防止
	(2) 防犯体制の充実	(5) 放射線関連の情報の提供
	(3) 市民相談の充実	
社会基盤	(1) くらしや産業を支える道路環境の整備	(5) 良好で安全・安心な住環境の整備
	(2) 快適で住みよい生活環境の形成	(6) 有効的な土地利用等の推進
	(3) 安定した水道水の供給と汚水処理の普及拡大	(7) 地域情報化の推進
	(4) 公共交通の充実	

1 成果指標

指標名	指標の説明	初期値 27年度	28年度 実績参考値	29年度 実績	33年度 中間目標値	38年度 最終目標値
①出生数[単年]	本市における年間の出生数	327人	356人	310人	320人	320人
②妊婦一般健康診査(後期)所見ありの妊婦の割合[単年]	妊婦一般健康診査(後期)の受診結果で所見ありの妊婦の割合の減少	47.7%	56.8%	50.0%	28.0% (減少目標)	18.0% (減少目標)
③むし歯のない3歳児の割合[単年]	3歳児健康診査時にむし歯のない子どもの割合の増加	71.5%	71.6%	75.5%	80.0%	82.0%
④特定健診受診率[単年]	国保被保険者の健診対象者のうち、特定健診を受診した者の割合	38.1%	36.4%	現時点で 未公表	47.0%	60.0%
⑤メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率[単年]	平成20年度を基準としたメタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率	17.51%	17.03%	現時点で 未公表	31.0%	41.0%
⑥太極拳ゆったり体操教室数[単年]	市内の太極拳ゆったり体操教室数	53教室	58教室	62教室	58教室	63教室
⑦認知症サポーター養成者数[累計]	市内の認知症サポーター養成者数	1,981人	2,628人	3,716人	3,981人	5,981人
⑧いきいき高齢者率[累計]	要介護の認定を受けていない高齢者の割合	80.5%	80.8%	80.3%	83.0%	85.0%

指標名	指標の説明	初期値 27 年度	28 年度 実績参考値	29 年度 実績	33 年度 中間目標値	38 年度 最終目標値
⑨就労継続支援利用者数[単年]	障がい者で、生産活動を通して知識や能力の向上のためのサービスを利用している者の年間の数	150 人	167 人	172 人	165 人	177 人
⑩火災発生件数 [単年]	広域消防本部による市内の年間火災発生件数（暦年）	31 件 (H28)	31 件	20 件	25 件 〈減少目標〉	20 件 〈減少目標〉
⑪ V-Low マルチメディア放送戸別受信機の配布完了行政区数[累計]	戸別受信機の配布行政区数	0 行政区 (H28)	0 行政区	0 行政区	186 行政区	272 行政区
⑫自主防災組織数 [累計]	地域防災力確保のための自主防災組織数	60 組織	63 組織	68 組織	85 組織	110 組織
⑬交通事故による死傷者数[単年]	福島県警察本部交通事故発生状況による市内の年間の交通事故による死傷者数（暦年）	115 件	84 件	103 件	97 件 〈減少目標〉	82 件 〈減少目標〉
⑭刑法犯発生件数 [単年]	喜多方警察署による市内の年間刑法犯発生件数（暦年）	258 件	204 件	194 件	224 件 〈減少目標〉	200 件 〈減少目標〉
⑮道路橋の修繕による対策数 [累計]	健全性の診断結果が早期措置段階の橋梁を対象とした修繕による対策数	1 件 (H28)	1 件	1 件	6 件	11 件
⑯ 1 級市道の舗装補修の対策率 [累計]	路面性状調査による MCI が 3 以下の 1 級市道を対象とした舗装補修の対策率	12.5% (H28)	12.5%	32.4%	50.0%	100.0%
⑰本庁、各総合支所相互間を結ぶ所要時間の短縮 [累計]	本庁と各総合支所及び各総合支所間を結ぶ所要時間の合計	263 分 (H28)	263 分	261 分	253 分 〈減少目標〉	243 分 〈減少目標〉
⑱水道普及率 [累計]	行政区域内人口に対する給水人口	87.6%	87.7%	88.2%	87.9%	90.0%
⑲下水道等普及率 [累計]	総人口に占める公共下水道、農業集落排水、浄化槽の利用可能人数の割合	61.5%	60.9%	60.2%	68.7%	76.8%
⑳水洗化率 [累計]	下水道が整備された区域の人口のうち接続（水洗化）した人口の割合	86.7%	87.8%	88.7%	87.8%	89.0%
㉑一人あたりの都市公園面積 [累計]	都市計画区域内人口一人あたりの都市公園面積	7.3 m ² /人	7.42 m ² /人	7.48 m ² /人	8.45 m ² /人	8.89 m ² /人
㉒公共交通利用者数[単年]	1 日の公共交通利用者数	282 人	271 人	277 人	360 人	492 人
㉓木造住宅耐震診断の実施件数 [累計]	S56 年以前に建設された木造住宅で耐震診断を行った件数。※（一社）福島県建築士事務所協会の審査を受けたもの	37 件	41 件	42 件	67 件	92 件
㉔耐震改修を行った木造住宅の件数[累計]	木造住宅耐震診断を行った後、耐震改修を行った件数	1 件	1 件	1 件	6 件	12 件
㉕空き家等解体撤去件数[累計]	助言・指導等を行った空き家等、及び相談を受けた空き家等のうち解体及び撤去を実施した件数	3 件	29 件	41 件	33 件	58 件
㉖携帯電話不通話地区の解消 [累計]	市内の携帯電話不通話地区数	4 地区 (H28)	4 地区	3 地区	2 地区 〈減少目標〉	0 地区 〈減少目標〉

【成果指標からみた実績】

子ども・子育ての分野では、減少目標である②妊婦一般健康診査(後期)所見ありの妊婦の割合がなかなか減少しない状況にあり、このほとんどは貧血の有所見者であり、貧血予防チラシによる情報提供や、食を中心とした保健指導により予防の強化を図っています。その他の指標については、おおむね良好な数値を示しています。

保健・医療・介護・福祉の分野では、④特定健診受診率と⑤メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率が、昨年度のデータではありますが、初期値を下回っています。その理由として、まず④特定健診受診率については、健診対象者の約 4 割は生活習慣病治療中であるための未受診者です。PR 不足の面もありますので、医療機関と連携して周知を行います。⑤メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率については、国・県と比較して高い数字を保っており、一時的な減少ととらえ、継続して取り組みます。その他の指標については、おおむね良好な数値を示しており、⑥太極拳ゆったり体操教室数と⑨就労継続支援利用者数については、33 年度の目標値を上回っています。

消防・防災の分野では、おおむね良好な数値を示しています。⑪V-Low マルチメディア放送戸別受信機の配布完了行政区数については、実績としてはゼロですが、30 年 4 月から配付を開始し、30 年度中に、喜多方・塩川地区 186 行政区へ配付完了の見込みです。

生活・安全の分野では、おおむね良好な数値を示しており、減少目標である⑭刑法犯発生件数においては、38 年度目標値よりも減少している状況です。

社会基盤の分野では、現時点で未定の部分を除くと、維持の状況が多く見られますが、⑯1 級市道の舗装補修の対策率や⑲木造住宅耐震診断の実施件数、⑳空き家等解体撤去件数などは増加しています。また、㉑本庁、各総合支所相互間を結ぶ所要時間の短縮は、路線の整備によって約 2 分短縮されました。㉒公共交通利用者数が減少したのは、予約型乗合交通の利用者が減少したためで、より利用しやすい交通体系について検討しているところです。

2 市民満足度・重要度調査結果

項 目	満足度		重要度	
	29 年度	30 年度	29 年度	30 年度
(1) 子育てしやすい環境の整備について (1の①～③)	51.3	49.4	91.1	89.9
(2) 健康づくりや病気の予防対策の推進について (1の⑥⑧)	62.5	59.0	86.4	86.6
(3) 病院などの地域医療体制の充実について (1の④⑤)	45.8	45.9	90.0	90.2
(4) 障がい者や高齢者などのための福祉サービスについて (1の⑦⑨)	53.3	50.3	87.9	87.3
(5) 自然災害や火災などの防災対策について (1の⑩～⑫)	54.4	55.9	88.9	88.2
(6) 防犯対策などの安全・安心なまちづくりについて (1の⑬⑭)	57.2	54.0	87.5	86.8
(7) 道路環境等の整備について (1の⑮～⑰)	46.3	42.9	85.4	84.2
(8) 公園の整備について (1の⑱)	47.0	46.4	73.7	73.6
(9) 生活排水などの汚水処理対策について (1の⑲⑳)	54.6	54.1	84.9	83.7
(10) 公共交通機関の利用環境について (1の㉑)	39.4	36.8	77.8	78.2
(11) 住宅や住環境の整備について (1の㉒～㉔)	41.2	37.9	77.5	78.7
平 均	50.3	48.4	84.6	84.3

【市民満足度・重要度調査結果】

(1) 子育てしやすい環境の整備について

満足度の順位は 17 位となり、重要度の順位は 2 位となった。

不満とする理由として、

「小児科について夜間など少なすぎる。」「子どもの病院で夜間など、喜多方市内で対応できないときの交通費（ガソリン代など）の助成をしてほしい。保育料が高い。」といった意見があった。

重要とする理由として、

「子供が少ない今、子供にもっと期待してよいと思う。お金も人もかけて大事に育ててほしい。」といった意見があった。

さらに、「保育料の支援、住宅の提供などを進め、若い人が集まるような充実した施策が求められていると思う。」「保育の充実を図ってほしい。保育士の確保をしてほしい。」といった意見があった。

(2) 健康づくりや病気の予防対策の推進について

満足度の順位は 2 位となり、重要度の順位は 8 位となった。

主な意見として、

「健康づくりの施策を市役所や病院などで考えてほしい。」「国保の人間ドックが 5 年に 1 回しか受けられなくなったのは、病気の発見が遅れかえって医療費の増加につながると思う。」との意見もあった。

(3) 病院などの地域医療体制の充実について

満足度の順位は 22 位となり、重要度の順位は 1 位となった。

不満の理由として、

「家庭医療センターで受診したことがあるが、総合すぎてよくなかった。」「産科が少ない。高度医療機関が無い。」「開業医が減り、医療を受けにくい。」「2 次、3 次救急ができる施設は必要です。」「眼科、皮膚科、耳鼻科がとても混んでいて困る。」といった意見があった。

重要とする理由として、

「地域医療体制の充実は、市民にとって非常に重要だと思う。」との意見もあった。

(4) 障がい者や高齢者などのための福祉サービスについて

満足度の順位は 16 位となり、重要度の順位は 6 位となった。

重要とする理由として、

「高齢者にとって運転免許を返納すると街中心に住んでいないと生活できなくなる。」「高齢化が進み、家の周りの草刈りや整理まで手が回らないため、地域の環境が悪くなっている。」といった意見があった。

(5) 自然災害や火災などの防災対策について

満足度の順位は 6 位となり、重要度の順位は 3 位となった。

満足の理由として、

「消防の夜警をこまめに行っているのはご苦労さまです。」という意見があった。

重要とする理由として、

「地震や豪雨等自然災害が身近な問題です。」「山水が大変出て自然災害等の恐怖に怯えています。」といった意見があった。

(6) 防犯対策などの安全・安心なまちづくりについて

満足度の順位は 13 位となり、重要度の順位は 7 位となった。

主な意見として、

「各集落の空き家が多くなっているので防犯安全対策を願う。」「防犯カメラをごみ捨て場に設置したら、注意して何でも捨てなくなるのでは?」「防犯対策として防犯カメラの設置等をお願いできればと思う。」といった意見があった。

(7) 道路環境等の整備について

満足度の順位は 22 位となり、重要度の順位は 11 位となった。

不満の理由として、

「道路消雪施設の修理を早急にしてほしい。」「除雪が遅い。特に住宅街が遅い。」「街灯が少なく危険である。」「交通安全の対策、標識案内板などの標準化が全然なされていないと思う。」といった意見があった。

(8) 公園の整備について

満足度の順位は 19 位となり、重要度の順位は 22 位となった。

不満の理由として、

「子どもが遊べる公園がもっとあるとよい。」「1 か所に遊具のそろった大きな公園を作る方が利用価値があると思う。」「遊びに行きたい公園にしてほしい。」「公園の遊具・トイレ等とても良い環境とは思えず、子供を連れて遊べるとは思わない。」といった意見があった。

(9) 生活排水などの汚水処理対策について

満足度の順位は 12 位となり、重要度の順位は 13 位となった。

主な意見として、

「新築後、30 年経過しているのにいまだに公共下水道が整備されていない。」「下水道使用料が高い。」「浄化槽の維持管理も年間の金額にすると大きい。」といった意見があった。

(10) 公共交通機関の利用環境について

満足度の順位は 25 位となり、重要度の順位は 19 位となった。

不満の理由として、

「高齢者の逆走などのニュースが増えているので、高齢者が早く免許を返納しやすいように公共交通機関を充実させた方がよい。」「通院や買い物など、特に高齢者の足の確保にもっと力を注いでほしい。」「路線バスや鉄道が充実していないので、車しか選ばなくなってしまう。」「デマンドバスについて、土、日曜日休みはおかしいのではないか。」といった意見があった。

(11) 住宅や住環境の整備について

満足度の順位は 23 位となり、重要度の順位は 17 位となった。

不満の理由として、

「倒壊寸前の空き家が結構あり、危険なので何とかしてほしい。」「空き家を利用した宿泊施設の確保により、観光客が利用するような体制を整備すればよいと思う。」「増える空き家・空き店舗など、防犯、景観、安全、様々な面から買い取り・再利用の斡旋や補助金制度を作るなど、早急な補助が必要だと思う。」「空き家で積もった雪が川に落ち、川が詰まり大変です。」といった意見があった。

3 審議会委員の意見（評価、提案、要望等）

- ・ 都市公園の整備について、公園長寿命化計画や緑の基本計画に基づき、安心して子どもが遊びに行けるよう、遊具の設置や衛生的なトイレの設置についても検討してください。また、都市公園以外の遊び場についても、積極的に行政区の相談に対応してください。

大綱4 自然との共生と元氣なふるさとづくり

施策の分野	施策項目	
協働・地域コミュニティ・市民活動	(1) 協働の意識の醸成	(3) 市民活動の推進
	(2) 地域コミュニティの支援	(4) 非核平和のまち宣言の普及啓発
移住・定住	(1) 移住の促進	(2) 定住の促進
連携・交流	(1) 地域間等の連携と交流の推進	(2) 国際交流の推進
生活環境・自然環境・景観	(1) 清流対策の推進	(3) 良好な景観の保全と形成
	(2) 環境の保全	(4) 害を及ぼす小動物や害虫の駆除・防除
循環型社会	(1) 廃棄物減量化の促進	(3) 省エネルギー・再生可能エネルギーの推進
	(2) 環境負荷の低減	

1 成果指標

指標名	指標の説明		初期値 27 年度	28 年度 実績参考値	29 年度 実績	33 年度 中間目標値	38 年度 最終目標値
①NPO 法人やボランティア団体との協働事業数 [単年]	NPO 法人やボランティア団体と協働で取り組んだ年間の事業数		19 件	20 件	20 件	25 件	30 件
②NPO 法人組織数 [累計]	本市の NPO 法人の組織数		23 団体	23 団体	24 団体	28 団体	33 団体
③ふるさと創生事業の採択件数 [単年]	地域づくりに関する補助金の年間採択件数		27 件	36 件	36 件	35 件	40 件
④公園サポート団体との協定数 [累計]	行政区や地域団体と喜多方市公園等管理サポート協定を締結した件数		33 件	33 件	33 件	35 件	37 件
⑤道路サポート協定の協定数 [累計]	行政区や地域団体とうつくしまの道・サポート協定を締結した件数		14 件	17 件	18 件	17 件	20 件
⑥本市への移住件数[累計]	相談窓口や移住促進のための制度を活用した移住の件数（若者定住補助金利用での転入を含む）		12 世帯 (H28)	12 世帯	40 世帯	62 世帯	112 世帯
⑦市人口の転出超過数[単年]	現住人口における年間の転出超過数（暦年）		175 人	162 人	263 人	59 人 〈減少目標〉	17 人 〈減少目標〉
⑧連携協定等締結数[累計]	友好都市・宣言、産学官連携、協定等の締結数		37 件	41 件	45 件	44 件	50 件
⑨国際交流活動参加者数[単年]	姉妹都市との交流事業や外国語講座等への年間参加者数		205 人	246 人	248 人	250 人	300 人
⑩地区清掃実施行政区数[単年]	地区清掃活動による環境美化に取り組む年間の行政区数		250 行政区	249 行政区	259 行政区	263 行政区	272 行政区
⑪河川の生物化学的酸素要求量（BOD）[単年]	市内の 2 河川の有機汚濁の程度	田付川	1.6 mg/ℓ	0.9 mg/ℓ	現時点で 未公表	1.2 mg/ℓ 〈減少目標〉	1.0 mg/ℓ 〈減少目標〉
		濁川	1.7 mg/ℓ	0.9 mg/ℓ	現時点で 未公表	1.3 mg/ℓ 〈減少目標〉	1.0 mg/ℓ 〈減少目標〉
⑫まちなみ景観形成事業費補助金の申請件数 [単年]	景観形成住民団体として認定した団体またはこの団体に属する者が行う景観形成事業の年間補助金申請件数		2 件	2 件	5 件	3 件	6 件

指標名	指標の説明	初期値 27 年度	28 年度 実績参考値	29 年度 実績	33 年度 中間目標値	38 年度 最終目標値
⑬一人一日あたり のごみ排出量 [単年]	年間の総排出量から一人一日 あたりの排出量を算出したも の	966 g	943 g	968 g	932 g (減少目標)	908 g (減少目標)
⑭リサイクル率 [単年]	市内で排出される一般廃棄物 のうち、資源物が占める割合	15.0%	14.6%	14.2%	18.0%	21.0%
⑮住宅用太陽光発 電システム導入 量[累計]	市内における住宅用太陽光発 電システム導入量（資源エネ ルギー庁公表データ）	2,500 k w	2,975 k w	3,060 k w	4,400 k w	6,000 k w

【成果指標からみた実績】

協働・地域コミュニティ・市民活動の分野では、おおむね良好な数値を示しており、⑤道路サポート協定の協定数は、33 年度の目標値を上回っています。

移住・定住の分野では、本市への移住件数が順調な伸びを示し、⑥本市への移住件数が 28 世帯増えた分のうち、21 世帯が若者定住補助金利用による移住となりました。その一方で、減少目標である⑦市人口の転出超過数は、大幅に増加する結果となりました。これは、平成 29 年 11 月に市内の特別養護老人ホーム（110 床）が会津若松市に移転したことに伴い、利用者 107 名が全員転出されたことなどが影響しています。

連携・交流の分野では、⑧連携協定等締結数は、33 年度の中間目標値を上回っています。

生活環境・自然環境・景観の分野では、⑫まちなみ景観形成事業費補助金の申請件数が 33 年度目標値を上回りました。減少目標である⑪河川の生物化学的酸素要求量が現時点で未公表ですが、昨年度の実績参考値は、すでに 38 年度最終目標値より減少しています。

循環型社会の分野では、減少目標である⑬一人一日あたりのごみ排出量が若干増加、また⑭リサイクル率が若干減少となっている一因として、容器包装プラスチックのリサイクル率の低下がみられるため、分別方法の周知に努めているところです。

2 市民満足度・重要度調査結果

項 目	満足度		重要度	
	29 年度	30 年度	29 年度	30 年度
(1) 住民と行政との協働によるまちづくりについて (1の①～⑤)	53.5	52.9	77.2	77.3
(2) 移住・定住の促進について (1の⑥⑦)	47.4	46.8	74.7	78.5
(3) 国際交流・地域間交流（連携）の推進について (1の⑧⑨)	56.0	54.9	61.2	62.3
(4) 環境の保全や市の景観について (1の⑩～⑫)	56.4	52.7	78.8	79.4
(5) 地球環境にやさしいまちづくりについて (1の⑬～⑮)	64.0	62.6	83.5	84.5
平 均	55.5	54.0	75.1	76.4

【市民満足度・重要度調査結果】

(1) 住民と行政との協働によるまちづくりについて

満足度の順位は 14 位となり、重要度の順位は 20 位となった。

主な意見として、

「積極的な市民指導と市民のやる気を期待する。市当局が動いても市民は生活に追われてか無関心に見え、動きが鈍い。町内会単位くらいに市の指導もおろしてはどうか。」「地域活動を活性化するには、自分の住む地域を知ること、世代間の交流が必要。世代によって分断するのではなく、世代、障害の有無などを超えた交流が大切。」といった意見があった。

(2) 移住・定住の促進について

満足度の順位は 18 位となり、重要度の順位は 18 位となった。

満足度でわからないを選んだ割合が 40.9%と高かった。

主な意見として、

「若者に定住してほしいのなら、喜多方に会社をもってこないといけない。」「アパートが少ない。商業施設が少なく、夜中まで営業している店が無い。職はあっても低所得。住むにはもっと魅力が必要。」「人を呼ぶのも大切だが、今いる子供たちが定住するような教育をしていくとよい。」「喜多方市内に屋内プールを！！」といった意見もあった。

(3) 国際交流・地域間交流（連携）の推進について

満足度の順位は 8 位となり、重要度の順位は 27 位と最下位になった。

満足度でわからないを選んだ割合が 48.3%と最も高かった。

主な意見として、

「国際交流、地域交流の地域旅行等のプランを立て市民がどんな場所なのか知ってもらいたいと思う。」「人の交流、物産の交流をもっと促進してほしい。」「修学旅行やスキー教室など、小中高の行事交流も充実してほしい。」「姉妹都市や友好都市があったことを知らなかった。」といった意見があった。

(4) 環境の保全や市の景観について

満足度の順位は 15 位となり、重要度の順位は 16 位となった。

満足の理由として、

「景観は街並みの整備や国の指定を受けるなど活躍が見られ将来に期待できる。」「街路の「つつじ」が毎年雪囲いされ、雪害より保護されていることに満足している。」といった意見があった一方、

「市所有の緑地帯にゼブラカラーのロープが張られるようになってから、草むしりもされず、荒れ放題です。景観的にも何か異常です。」「日中線しだれ桜が、道路の除雪のために折れる桜があり、毎年心が痛みます。」との意見もあった。

(5) 地球環境にやさしいまちづくりについて

満足度の順位は 1 位となり、重要度の順位は 9 位となった。

満足の理由として、

「ごみの分別収集はよくやられている。」「週 2 回ごみ収集に来てくれているので本当にありがたいと感謝している。」「子供達のリサイクルへの取り組みは素晴らしいと思う。」といった意見があった一方、

「月曜が休日や 5 月の連休時に生ごみを置くところが欲しい。」「市内の一斉清掃に必ず出てこない人もあり、ごみの捨て方もマナーに反する人がいる。罰金を取るのも一例だと思う。」との提言もあった。

3 審議会委員の意見（評価、提案、要望等）

- ・ ごみの排出量の増加やリサイクル率の低下に的確に対応するため、より一層、分別方法の周知に努めてください。その際には、「家庭ごみの分け方・出し方」や「家庭ごみ収集カレンダー」等の周知資料について、より分かりやすくなるよう、見直しをご検討ください。